**単元４ 連合立等神学校奨学金制度について**

**Ｑ１：この制度はどのようなものですか。**

Ａ１：東京バプテスト神学校（東京・神奈川・北関東の三地方連合立）と九州バプテスト神学校（九州四地方連合諸教会等からの支援）での、伝道者を目指す神学生に授業料の一部を奨学金として支給（給付、以下同じ）する制度です。

それぞれの神学校にて奨学金制度を創設し運営しています。

**Ｑ２：伝道者を目指す神学生とはどのような学生ですか。**

Ａ２：東京バプテスト神学校では神学専攻科と教会教育専攻科及び教会音楽専攻科の学生、九州バプテスト神学校では牧師コースの学生が該当します。

**Ｑ３：この制度の必要性は何ですか。**

Ａ３：2011年6月11日付けで東京バプテスト神学校理事長発文書にて、連盟常務理事宛に神学生奨学　　　金制度の創設についての要請がありました。

背景としては、伝道者を目指す神学生の経済的負担が軽減され、神学生の学習意欲の向上につながることと、新たに伝道者をめざし入学する神学生の増加が期待されることでした。

連盟及び壮年会連合としても全国の牧師・伝道者の高齢化を踏まえると、多くの献身者を生み出すことが急務であると一致した見解を持つに至っていますので、「伝道者養成の業」推進の一つのアイテムとして、この制度を重要なものと判断し、九州バプテスト神学校も含めてできるだけ早く実現できるよう協働で取り組んできました。

また両神学校に奨学金制度があることで、伝道者への献身へと押し出すための物心両面の支援となることを期待しているのです。

**Ｑ４：連盟における連合立等神学校の位置づけはどのようなものですか。**

Ａ４：連合立等神学校へも奨学金支援をすることが、イコール西南学院大学神学部と両神学校を同じと見ることではありません。2012年8月の壮年会連合総会での加藤常務理事（当時）の発言（第47回全国壮年大会報告書18頁参照）や同年11月の連盟定期総会議案書（99ページ参照）にあるように、これまでの位置付けを変えるものではなく、むしろ緊密に連携していきたいとの理事会方針に沿うものと考えています。よって各々の神学校には、諸教会から期待される役割を担っていただくことを望むし、専任の講師により神学を集中的に学ぶ西南学院と、第一線で牧会されている牧師・伝道者を講師として学びをされる両神学校が、それぞれの特徴を活かして伝道者養成に関わっていただきたいと願っています。

　　　　そして、そこへ祈りと献げものをもって献身者を送りだすことが、全国諸教会の最大の応答と考えているのです。

**Ｑ５：３つの神学校から輩出された伝道者の状況はどのようなものですか。**

Ａ５：2013年1月現在では以下の通りです。（全国壮年会連合の調査による）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **卒業神学校** | **牧師 & 副牧師** | **左記以外の伝道者** | **伝道者合計** |
| 西南学院大学神学部（大学院含む） | 193名（42.9%） | 56名（12.4%） | 249名（55.3%） |
| 男性178（40%)女性 15（ 3%） | 男性48（11%)女性 8（ 2%） | 男性226（50%)女性 23（ 5%） |
| 東京バプテスト神学校 |  34名（ 7.6%） |  14名（ 3.1%） |  48名（10.7%） |
| 男性26（ 6%)女性 8（ 2%） | 男性 7（ 2%)女性 7（ 2%） | 男性33（7%)女性15（3%） |
| 九州バプテスト神学校 |  16名（ 3.6%） |  12名（ 2.7%） | 28名（ 6.2%） |
| 男性11（2%)女性 5（1%） | 男性 11（2%)女性 1（ 0%） | 男性22（5%)女性 6（1%） |
| その他神学校 |  74名（16.4%） | 51名（11.3%） | 125名（27.8%） |
| 男性63（14%)女性 11（ 2%） | 男性 34（8%)女性 17（4%） | 男性97（22%)女性28（ 6%） |
| 合計 | 317名（70.4%） | 133名（29.6%） | 450名（ 100%） |
| 男性278（62%)女性 39（ 9%） | 男性 100（22%)女性 33（ 7%） | 男性378（84%)女性 72（16%） |

 **2012年度教勢報告による現在会員の男女比（男性35.6％、女性64.4％）の状況と比べ、伝道者の男女比は大きくかい離している。今後、女性の神学校卒業生が増えていく状況にあり、伝道者に対する教会の意識変化が望まれる。**

**Ｑ６：奨学金の金額と形態はどのようなものですか。**

Ａ６：両神学校の専攻科・牧師コースの授業料は、一人年間15万円（教会音楽専攻科30万円）です。そのうちの12万円を2年間（就学期間）に限り支給としています。もし、西南学院大学神学部学生のように全額貸与とし、数年後に一部返還とすると、両神学校が膨大な事務量を抱えることとなるのでこのような支給形態としたのです。

**Ｑ７：この制度はいつからスタートしたのですか。**

Ａ７：伝道者数の不足を考え、神学生の経済的負担を少しでも軽くして勉学に集中してもらうためにも、できるだけ早く神学生への支援をスタートしたいと考え、2012年8月の壮年会連合総会に提起しました。しかし、その手続きと、西南学院大学神学生への奨学金という創設当時の熱き思いとこれまで築いてきたものを大きく変えるということに対する複雑な思いから、継続審議となったものです。その後、連盟は11月の連盟定期総会で審議し承認を得たので、2013年4月より本制度が施行されることになりました。連盟からの業務委託を担うことに対する全国壮年会連合総会の決議を待って実運用とする運びとなり、奨学金の支給時期は2013年8月末となったのです。

**Ｑ８：奨学金の支給条件はどのようなものですか。**

Ａ８：基本的に西南学院大学神学部学生のための壮年会連合奨学金規程の精神を遵守しています。したがって、伝道者を目指すことの召命・献身決意を明らかにし、推薦教会総会にて奨学金受給の承認を得ることが必須条件です。なお中途退学や卒業後、伝道者とならなかった場合は全額返還を求めることとなり、このことは推薦教会も返還の責任を負うのです。

**Ｑ９：奨学金資金の出どころはどこからですか。**

Ａ９：連盟からの委託によって壮年会連合が運用を管理している「神学生奨学金会計」から出金します。

**Ｑ10：何人くらいの給付対象者神学生を見込んでいるのですか。**

Ａ10：給付対象者として、両神学校合わせて20名が最大と見込んでいます。予算としては最大、年240万円です。

**Ｑ11：神学校献金のここ数年の実績から見て資金が枯渇することはないのですか。**

Ａ11：現在の目標3000万円は西南学院大学神学部学生25名に貸与するための指標として設定していますが、ここ数年は学生数20名前後で推移していることから、実績2,300万円でも足りています。しかし、これに両神学校奨学金の年間240万円が加わった場合、神学校献金の伸びとのバランスによっては、単年度赤字となることも考えられます。その場合、繰越金として留保している神学校献金資金を取り崩すこととなりますが、当面は枯渇することはないと予測しています。ただそのような状態が長くなる場合は目標献金額の見直しも必要となるでしょう。

**Ｑ12：この制度が施行された場合、全国壮年会連合の職務はどのように変わるのですか。**

Ａ12：現行受託している「西南学院大学神学部学生奨学金制度の運営」に加えて、両神学校への送金実務と受給者の名簿管理が連盟から委託されました。送金額の決済は連盟理事会であり、その指示によって送金実務を行うことになりました。

**Ｑ13：神学校献金推進の働きがどのように変わるのですか。**

Ａ13：2013年度から施行され、従来『西南学院大学神学部学生奨学金のための奨学金資金』として行っていた神学校献金推進の呼びかけが、『（３神学校で学ぶ神学生の）奨学金資金のために』と変わりました。そして『神学校献金（神学生奨学金献金）』と呼称することになりました。なお、現在でも多くの教会では、西南学院大学神学生奨学金に限定することなく、両神学校への献金（教会として、あるいは個人として後援会に加入したり、個々の神学生への支援や神学校の経営支援をしている様々な献げもの）も含めて神学校献金推進活動をしていただいているので、その体制は変らないと考えています。

**Ｑ14：今まで〝社会的収入の道を断って〟献身した神学生のために神学校献金推進をしてきたが、両神学校の神学生も含めた神学校献金となると、献げる方のモチベーションが下がるのではないですか。**

Ａ14：確かに職業や地位を捨て、伝道者を目指して西南学院大学神学部で学ぼうとする献身の決意は尊いものです。しかし両神学校の学生にとっても、家庭やその他の諸事情等で西南学院大学神学部への進学ができず、働きながら伝道者を目指す方もおり、通学やスクーリングなどの経費を考慮すると、疲れた中、夜学で神学を修めようとする献身の決意は同様に尊いものです。2012年度全国壮年会連合総会で加藤常務理事（当時）が言われたように、「連盟と諸教会が両神学校の神学生への祈りを届け、しっかりと学んでくださいという意味を込めた奨学金」という思いに同意するものです。このような中で奨学金受給を決意し、推薦教会総会から期待をもって両神学校へ送り出されることは、卒業後、連盟の諸教会に仕えることの、より強い召命感につながるものと期待しています。

これまでの神学校献金の理解を大きく変えることになりますので、これを機に、連盟の「伝道者養成」の業に参与する壮年会連合としても、壮年だけでなく各層にも呼びかけて、更なる推進に拍車がかかることを期待しているのです。